

# 煙突からアスベスト!?

## まろがのアスベスト



写真-3  
石綿断熱材が煙突頂部より4皿下をふさいでいる。



写真-2  
煙突脚部に堆積した石綿断熱材をかき出したが、上部は石綿で閉塞している。



写真-1  
はく落し堆積した石綿断熱材。

### 誰も知らないアスベストの発生源!!

煙突アスベストニュース第1号発行のあとも、石綿含有煙突断熱材劣化の事実が増加の一途をたどっている。

今も複数の煙突にかかわる関係者から、煙突内での断熱材剥がれ落ちやその堆積だけではなく、頂部煙突口から石綿含有断熱材の噴出している情報が寄せられているのだ。

5〜6年前までは煙突断熱材の劣化や損傷が降雪寒冷地の煙突だけに多いのだろうと思われていた。

しかし、関東や西日本地域の雪の降らない地域からもその損傷実態が報告されていて、やはり剥落堆積した煤塵まみれの石綿(写真-1)を、廃棄しているのである。なおかつその関係者は石綿であることを知らないでいるのである。

又、煙突口から石綿が噴出した形跡や報告があり、前号に掲載した北海道苫小牧市の給食センターポイラー煙突からの、バックファイヤーによる石綿含有煙突断熱材の放出飛散は、全国のいたるところで起きているのではないかと思われる。

今まで複数聞き取りしたポイラー技士の証言では、冬場の暖房用に使用されているポイラーの場合、秋口に試運転してから本稼働するのだが、ポイラーのスイッチをオンにしても点火稼働しない。

そこで最終的に煙突内を点検したら断熱材が剥離剥落して、煙突の底面よりポイラーからの横引き煙道の高さまで断熱材が詰まっていたという事例(写真-2)や、煙突頂部付近で剥がれ垂れ下がった断熱材が煙突内にひっかかり、半閉塞や完全閉塞(写真-3)しているというのである。

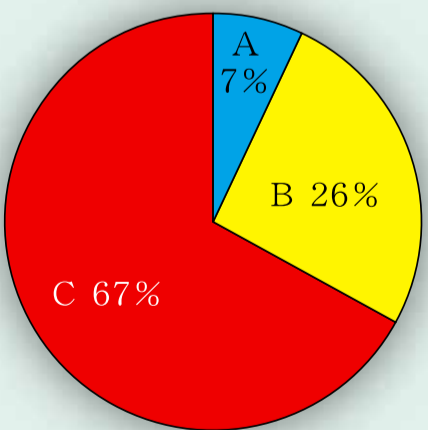
当然排気排煙が出来ないのでからポイラーに不具合が生じ、スイッチが入らないはずである。2回3回と点火スイッチを繰り返すうちに、ポイラー内の滞留した未燃ガスが発火し、バックファイヤーの爆風で大砲のごとく煙突内の石綿断熱材が周辺に放出してしまうのだ。

左記3つに仕分けた結果Aに該当される煙突は全体の7%しかなく、B・Cと判定された煙突は93%にも上るのだ。

### 煙突の93パーセントは不良

さて、今回は複数の煙突石綿含有断熱材処理をしている方々から、国内の煙突断熱材劣化状態度合について情報提供いただいた。そしてその煙突内の断熱材状態度を、ABCの3つのランクに仕分けてグラフ化した。

### 劣化の実態



- A 断熱材表面に変色が見られる程度
- B 断熱材の繊維崩れ、頂部の雨雪等による浸食、ライナーの単線亀裂がある程度
- C 断熱材の毛羽立ち、垂れ下がり、複数亀裂層間剥離、脱落、閉塞、堆積等見られる

煙突の石綿含有断熱材が確認されて尚且つB・Cと判定された場合は、除去・停止・封鎖等何らかの処置が早々に必要な状況にあると思われる。



写真-4  
頂部煙突口から放出して屋上に堆積した石綿繊維。

甚だしい事例では煙突口から剥落して噴出したと思われる断熱材片や、石綿繊維が屋上の隅に風に寄せられ堆積している事例までも確認出来ている。(写真-4)